

未来からの留学生

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 長島弥生

本日は、3・4・5歳児がホールに集まり、終業式を行いました。1号認定の子どもたちは、本日からしばらくの間お休みです。2・3号認定の子どもたちは、もうしばらくバンビーニ・ラルバなどの保育が継続します。

年末年始は、大人にとっては忙しい時期かもしれませんが、子どもたちにとって、楽しいことがたくさんありますね。家族で過ごす時間が、普段に比べて多くなると思います。子どもが小さい時の思い出は、子どもにとっても大人にとっても宝物だと思います。どうぞ、親子での良い時間をお過ごしください。



クリスマス会

今年も、クリスマス会は縦割りクラスで行いました。もり組が、グループごとに出し物を行い、それを他学年の子どもたちは、あこがれの目で見ていました。

“憧れる”という感情は、「自分もやってみたい」という強いモチベーションに繋がり、今後のその子自身の行動に大きく影響していきます。一方、“憧れられる”方にとっては、自分に自信を持ち、相手にやさしく接してあげようとしたり、相手に合わせて分かりやすく説明したりする行動に繋がります。



実際、クリスマス会の後、もり組にマジック（手品）やペーパーサートの作り方、楽器の使い方などを教わりに行き、クラスに戻り真似してやろうとする姿も見られていました。

もちろん、小さい学年の子どもたちは、もり組と同じようにはいきません。そこでさらに、もり組のお兄さんお姉さんってすごいな、もり組さんになりたいな…、となっていくのです。そのことが、自分でやってみたい、という気持ちの土台になっていきます。



メイプルキッズの子どもたちも、普段、お兄さん、お姉さんの姿にあこがれを抱く場面がたくさんあります。

自分たちの保育室に、出張お店屋さんがやってきて、丁寧に「〇〇屋さんやるよ。1個100円だよ。でも小さい子は、お金はいらないよ」といって、作ったものを誇らしげに配ってくれます。小さい子にも伝わる伝え方、接し方を自然と行える場面が、遊びの中にあります。この姿を見た0～2歳児の子が大きくなって、また、繰り返し、伝承していくのですね。そんな場面を大切にしていきたいです。



もちつき

今年の餅つきは、職員と子どもで行うものとなりました。子どもたちにとって、日本古来の文化を体験するという大きなねらいがあります。まずは、薪の燃えるにおい、蒸かしたてのもち米のにおいをかいだり、粒状のもち米が、伸びる餅に形状を変えていくさまを真剣に見たり・・・など。このような体験は、子ども自身の記憶の中に残ることと思います。

さて、近年、臼と杵で餅をつくご家庭がどのくらいあるのでしょうか。このような餅つきの体験をよい形で、持続させていけたらと思っています。





今まで、おじいちゃん・おばあちゃんにお世話になって行ってきましたが、実際、餅つきを行える方も少なくなってきました。私自身も、生活の中に餅つき体験はありませんでした。若い方たちにとってはなおさらでしょう。そのような体験を職員もたくさん経験できるように、今年度は、職員と子どもたちだけで、餅つきを行いました。自分のクラスの先生が餅をつく様子を見て、子どもたちは大喜びでした。そして、保育者自身も感動を子どもたちと共有していました。

その後各クラスで、担任が、鏡餅を作り、よい年が迎えられよう願いました。



学期ごとの実践検討会（振り返り）を行っています

昨年度もこの時期にお伝えしましたが、メイプルキッズ、あかみ幼稚園それぞれが、学期ごとに「振り返り」を行っています。そこでは、教育課程や教育・保育要領をもとに、子どもの様子と照らしあわせて、振り返り、今後どのような課題をもって保育を行っていくのかを検討します。日々の保育を行いつつも、各自で、そして学年等で保育の振り返りを行っていますが、学期ごとに行う実践検討会では、たっぷり時間をかけて振り返ることができ、保育の質を向上させていくうえで重要な役割を持っています。

今回は、保育現場における危機管理研修や教材研究（ピオトープ・動物）も行い、参加した職員が満足した表情でした。これからの保育に、活かしていけるようにしたいと思います。



子どもたちも日々の振り返りを行っています

保育の活動は、ねらいがありそれに基づいて行っています。幼児期の学びは、子どもたちが、楽しく遊んだり活動したりする中で、結果としてねらいに向かっていくのです。保育者は、子どもたちの興味関心に基づき、子どもたちが主体的に活動できるよう環境を構成し、援助をしていきます。

自分の思いや考えを体や言葉で表現することは、大切なことです。発達によって活動は異なりますが、例えば5歳児の保育室では、遊びの振り返りが行われています。そこでは、自分たちが、どういうことを工夫してその遊びをしているか、明日はどのようにしたい、などをモノや言葉を使って表現します。小さい学年では、前に出た子どもがクラスの担任の「今日、楽しかったことは何ですか」などの問いかけに、「鬼ごっこ」などと単語で答える場面もあります。このように、体験したことや感じたことを表現し、楽しくコミュニケーションを図れる基礎を培っていけるとよいと願っています。

令和5年、今年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。

